



家庭通信 6月号

2024年5月31日

学校法人 織田学園

おだ認定こども園

毎月の家庭通信・献立・保健だより等もHPでご確認いただけます

園庭のビワの実が大きく膨らみ、初夏の訪れを感じるとともに収穫を心待ちにしている私ですが、今年の子どもたちはあまりビワを食べたがる様子がありません。木が大きく成長して木の実の存在が子どもの視界に入りにくくなってきたのか？このままではカラスに美味しいところ取りされてしまいそうで気が気ではありません。

さて、この時期は色々な生き物の誕生や植物の生長を身近に感じる事ができる絶好のチャンスです。この時期に出会い、生活を共にしたり（飼育したり）草花を育てたりする体験が、生き物への親しみや温かな感情を生み、生物を大切にしようとする心の育ちにつながっていきます。

年中のクラスで飼い始めたアゲハ蝶の幼虫を観察して、成長と共に色や形が変化していく様子に「センスオブワンダー」自然に触れて深く心を動かす体験を繰り返している子どもたちです。今年は昨年同様猛暑でいつも城山の畑の方からたくさんいただいていたカブトムシの幼虫が例年に比べて少なかったという話を聞き、温暖化は小さな生き物たちにも大きく影響していることを知りました。世界では脱炭素社会実現に向けての対策が始まっていますが、日本では同時に、グリーンジョブのスキルを持った労働者が育っていない事も課題に挙げられています。

将来子どもたちが社会に出て働く時代になったころには、今よりはるかに環境問題は深刻化しグリーンジョブのスキルを持つ人材が必要となってきます。そのため、今、教育の現場で何ができるのかを考えた時、「乳幼児期から始めるESD教育」という視点を持つことではないかと本園では取り組みを始めています。

その基本的な姿勢として、私たち保育者は自然の不思議さや素晴らしい営みを子ども自身が気づいたり不思議に感じたり出来るような環境を用意する。出しゃばらず辛抱強く子どもと同じ目線で見守る。大人と一緒に発見を喜んで共感することで更に関心を深めたり興味が広がったりしていくことを助長することです。本園の取り組みは、度々、学研「ほいくあっぷ」という教育専門誌に掲載されています。今年の夏号には昨年度虹組の子ども達が行った劇遊びが紹介されています。園内に掲示しておきますのでご覧ください。

さて、日曜日は「おだキッズデー」があります。梅雨入りの便りが聞かれる中天気が心配されますが、子どもたちが、今、保育の中で楽しんでいる歌や表現・遊びを保護者の皆様と一緒に楽しみたいと思っています。詳しくは先日配信した内容をご覧ください。

6月のねらい

<年長組> (7月も同じ)

- 身近な自然事象や動植物の変化などを通してクラスの友達と一緒に発見したり不思議さを共有しながら興味関心を広げる。
- 夏ならではの遊びや行事を楽しむ。
- 友達と関わり合いを深め、思いを伝え合いながら遊びを進めていく。

<年中組> (7月も同じ)

- 様々な遊びに興味を持ちやりたいことをみつけながら十分に楽しむ。
- 自分なりに園の生活に見通しを持ちながら、進んで行動しようとする。
- 夏の遊びや活動に参加し楽しさや解放感を味わう。
- 夏の自然事象や、身近な虫や、植物の変化などに興味関心を持つ。

<年少組> (7月も同じ)

- 保育者と安心して自分の好きな遊びを楽しむ。
- 保育者に見守られながら、できることは自分でしようとする。
- 保育者と一緒に夏ならではの遊びを楽しむ。
- 保育者や友達と一緒に身体を動かす遊びを楽しむ。

<2歳児>

- 保育者に自分のやりたいことや気持ちを、簡単な言葉で伝えようとする。
- 保育者と一緒に好きなものやイメージしたものを見立てて遊ぶことを楽しむ。

<1歳児><0歳児> 0.1歳児は個別のねらいを立てています。